

北条重時家訓

ほうじょう・しげとき

作者: 北条重時

成立: 13世紀中葉



解題

Keyword

- 「六波羅殿御家訓」
- 「極楽寺殿御消息」
- 「平重時家訓」
- 北条時頼
- 極楽寺
- 藤原定家
- 北条長時

鎌倉時代中期の幕府要人・北条重時が残した現存する武家最古の家訓。「六波羅殿御家訓(ろくはらどのごかくん)」及び「極楽寺殿御消息(ごくらくじどのごしょうそく)」2編の総称。六波羅殿・極楽寺殿は重時の敬称である。

■ 成立と諸本

2編とも原本は失われ、成立時期も明らかではない。「六波羅殿御家訓」の成立は、重時の六波羅探題在任期(1230-47)の半ば以降とみられている。貞和3年(1347)の写本が昭和戦前に天理図書館蔵書となり、戦後(1947)公刊され初めて世に知られた。一方「極楽寺殿御消息」は、宗教的色彩が濃い内容からみて、重時出家後の晩年の作とされる。室町初期の写本(外題「平重時家訓」)が尊経閣文庫に伝来し、翻刻も明治以来刊行されている。また、この家訓をもとに北条時頼の教訓とした本も作られ、近世にかなり流布した。これまで両家訓とも他に写本はないとされてきたが、最近、天正19年(1550)の「極楽寺殿御消息」写本(国立歴史民俗博物館蔵)が異本として紹介・翻刻された。

■ 作者

北条重時は2代執権義時の三男として建久9年(1198)に生まれた。3代執権泰時の弟である。寛喜2年(1230)から京都で六波羅探題(北方)を18年にわたって務める。宝治元年(1247)三浦氏が滅亡した宝治合戦直後の鎌倉に戻って連署に就任し、5代執権時頼を補佐して幕政の安定に寄与した。康元元年(1256)連署を辞して出家、弘長元年(1261)極楽寺山荘で死去。仏教への帰依厚く、鎌倉

極楽寺の開基者と伝えられる。また、歌人としても知られ、京都時代には藤原定家と親交をもち、勅撰集にも和歌を残している。

■ 内容

「六波羅殿御家訓」は43か条。重時が息子長時(後に6代執権)への教訓として書いたものとみられ、武家の主人としての心構えから礼儀作法や服装に至るまでこと細かに指示した处世訓である。これに対して「極楽寺殿御消息」は99か条から成り、具体的な教訓もあるが、神仏の信仰とそれによる心の修養を説き、仏教の思想色が濃い。両家訓からは重時の宗教観・倫理観のみならず、鎌倉時代の武士の生活や主従関係などもうかがえ、史料としても興味深い。



史料本文を読む

<影印本>

- ◆「六波羅殿御家訓」(『北条重時の家訓』桃裕行校訂・解説 養徳社 1947 (天理図書館古典覆刊2) [K15.4/3]) ※両家訓の翻刻も併載
- ◆「六波羅殿御家訓」「極楽寺殿御消息」(『中世武家家訓の研究』筧泰彦著 風間書房 1967 [K24/191]) ※翻刻も併載

<翻刻本>

- ◆「平重時家訓(極楽寺殿御消息)」(『日本教育文庫 家訓篇』日本図書センター 1977 [370.8/47/3]) ※同文館1910年の覆刻

<注釈本>

- ◆「北条重時家訓」石井進校注(『日本思想大系21 中世政治社会思想 上』岩波書店 1972 [K32/20])
- ◆「極楽寺殿御消息」(『家訓集』山本眞功編注 平凡社 2001 (東洋文庫 687) [159.3KK/102])
- ◆「六波羅殿御家訓」「極楽寺殿御消息」(『武家家訓・遺訓集成 増補改訂』小澤富夫編集・校訂 ペリかん社 2003 [156.4MM/102])



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆桃裕行「北条重時の家訓解説」(『桃裕行著作集3 武家家訓の研究』思文閣出版 1988 [K24.4/84]) ※『北条重時の家訓』(養徳社1947)の解説を改訂
- ◆筧泰彦「北条重時の家訓について」(『中世武家家訓の研究』筧泰彦著 風間書房 1967 [K24/191])
- ◆内田澗子「『極楽寺殿御消息』再考：田中穰氏旧蔵典籍古文書所収本の紹介から」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第136集 2007 [Z381/19])